

天文学とプラネタリウム

第21回



今月のお題

あすとろカルタ見参



明けましておめでとうございます。天プラも無事に2006年を迎えることができました。本年もどうぞよろしく申し上げます。



www.tenpla.net

高梨直縵 (東大D1/天文学教育研究センター所属)

平松正顕 (東大D1/国立天文台ALMA推進室所属)

ところで皆様、新春はいかがお過ごしでしょうか？こたつでごろごろして星ナビを読んでも良いですが、お正月といったら、そう、やる事はひとつ。連綿と引き継がれてきた日本の伝統文化、カルタをしなければいけません。

あすとろカルタ

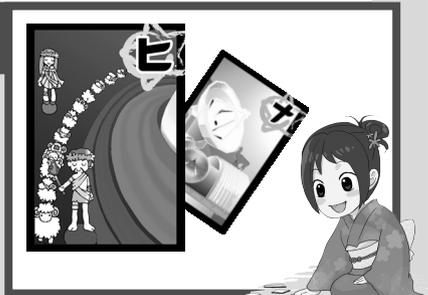
以前、このコラムでもご紹介した“あすとろカルタ”が、とうとう天プラサイトにお目見えしました。あすとろカルタは、天文学的な話題を17文字にぎゅっとまとめたもの。理論天文学から観測天文学、太陽系から宇宙の果てまで幅広いテーマを集めてカルタに仕上げました。天プラのカルタ製作班リーダー、百瀬莉恵子さんからコメントを預かっていますのでご紹介しましょう。

“どうもはじめまして。百瀬です。皆さんの中には、小中学生の時に百人一首を覚えさせられたことがある方もいるのではないかと思います。今や時代はあすとろカルタです。ぜひ楽しく、天文学に触れていただけたらと思います。”

このカルタ、解説はその分野を専門とするメンバーによってつけられています。市販の名刺用紙(8枚切り)に印刷出来るようにフォーマットを整えていますので、プリンターさえあれば皆さんのご自宅でもプリントして利用する事が可能です。1月から徐々にリリースを開始しますので、ぜひチェックしてみてくださいね！

今後の予定

句の中には、例えばSolar-B(今夏の打ち上げを予定している太陽観測衛星)の句なども含まれています。このような衛星は、打ち上げ後



「ひ」の絵札(羊飼いの土星のまわりで群れをみる)。この句は、「羊飼いの衛星と呼ばれるいくつかの小衛星が、土星の輪を構成する天体の「番」をしているから輪が安定的に存在出来る、ということ」を「かわいく」表しています。

に「ようこう」とか「はやぶさ」とか命名されますので、句の変更が必要となります。句の内容も最新のものにどんどんとアップデートされる予定です。あすとろカルタの今後の動向にもぜひご注目下さい。